

2011(平成23)年度
後期
事業計画書

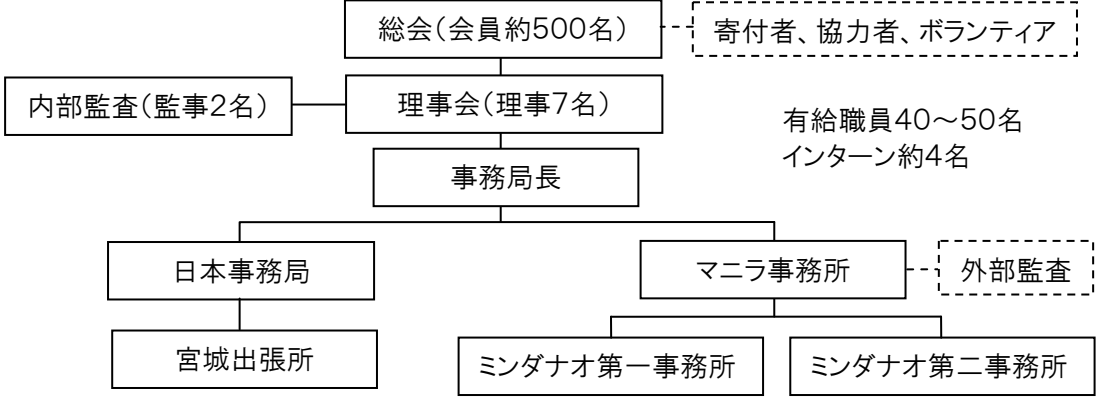
2011年5月1日～2012年4月30日

認定NPO法人 アジア日本相互交流センター

INTERNATIONAL CHILDREN'S
ACTION NETWORK

Not "for" the People, but 'with' the People

アイキャン概要

<p>私たちが解決したい課題</p>	<p>現在に至っても、紛争や「貧困」などの暴力に脅かされ、可能性を開花することができない状況に置かれている子どもたちが世界中にいます。特に紛争地の子どもたちやごみ処分場の子どもたち、先住民族の子どもたち、路上の子どもたち、薬物依存の子どもたち、海外出稼ぎ労働者の子どもたちなど「危機的状況に置かれている子どもたち」は、社会の中でも阻害され、享受すべき権利も守られておらず、劣悪な環境に置かれています。</p>	<p>世界の中には、様々な課題に対して、そして平和な社会を創るにあたって、市民一人一人が行動を望んでいても、それを阻む様々な要因があります。人々が地域に根差して地球規模の課題に取り組むことができるスペースは、依然として限られています。</p>
<p>私たちが目指す理想の社会</p>	<p>子どもたちが紛争や「貧困」などの暴力に脅かされることのない社会</p>	<p>社会問題の解決、理想の社会に向けて、行動する人や団体、地域で溢れる社会</p>
<p>アイキャンの活動目的</p>	<p>「『できること』を実践する人(=アイキャンな人)」を増やし、その一人ひとりの「できること」を持ち寄ることによって、世界中の子どもたちが享受できる平和な社会を築くこと。</p>	
<p>アイキャンの2011年活動</p>	<p>I、「危機的状態にある子どもたちと「ともに」行うプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 1、ジェネラルサントスの子どもたち 2、紛争の影響を受けた子どもたち 3、路上の子どもたち 4、先住民族ブランの子どもたち 5、外国にルーツを持つ在日の子どもたち 6、ごみ処分場周辺に住む子どもたち 7、災害の影響を受けた子どもたち 8、子どもの参加を促進する事業 	<p>II、「できること(ICAN)」を増やすプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 1、国際理解教育事業 2、語学教室事業 3、スタディツアー・研修事業 4、フェアトレード販売事業 5、フェアトレード啓発事業 6、NGO相談員事業 7、インターンプログラム事業
<p>アイキャンの2011年運営体制</p>	<p>運営上の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> 1、会員・寄付者、協力者の増加:より多くの人の「できること」によって成り立つ団体へと成長する。 2、管理体制の強化:管理職の増加を含め、管理体制の全体的な見直し、強化を行う。 <p>組織体制</p>  <pre> graph TD A[総会(会員約500名)] --- B[理事会(理事7名)] B --- C[事務局長] C --- D[日本事務局] C --- E[マニラ事務所] D --- F[宮城出張所] E --- G[ミンダナオ第一事務所] E --- H[ミンダナオ第二事務所] A -.- I[寄付者、協力者、ボランティア] E -.- J[外部監査] </pre> <p>有給職員40~50名 インターン約4名</p> <p>アイキャン事務所</p> <ul style="list-style-type: none"> 1、日本事務局:日本愛知県名古屋市 2、宮城出張所:日本宮城県東松島市 3、マニラ事務所:フィリピン共和国マニラ首都圏ケソン市 4、ミンダナオ第一事務所:フィリピン共和国ミンダナオ島ジェネラル・サントス市 5、ミンダナオ第二事務所:フィリピン共和国ミンダナオ島コタバト市 	

I、危機的状況にある子ども達と「ともに」おこなうプログラム

1、ジェネラル・サントスの子どもたち

2011年の注目

- 通学補助を受ける子どもたちの組織化を図ります。

これによって



子どもたちによる通学モニタリングシステムを作ります。

(1) 事業背景

ミンダナオ島の南部に位置するジェネラル・サントス市は、人口41万人、世帯数9万の地方都市です。ツナやパイナップル等の魚産物・農産物が豊かに収穫できますが、大農場や工場を持つ一握りの資本家への富の集中が顕著で、多くの人びとが最低限の生活状況の中にいます。公立学校にさえ子どもを通わせ続けることができず、経済的理由で、落第せざるを得ない子どもたちが少なくありません。また治安情勢も不安定で、多民族地域であるに関わらず相互理解はあまり進んでいません。そんな中アイキャンは、現在までに約150名の通学補助や相互理解を促進する活動を実施してきました。今年度は子どもたちが確実に卒業まで通学を継続できるように、モニタリングシステムの強化に取り組みます。

(2) 実施体制

ミンダナオ第一事務所(ジェネラル・サントス市)事務所が、教育省や他行政、各学校と協力して実施

(3) 事業のパートナー

ミンダナオ島ジェネラル・サントスの39名の子ども(高校生38名、大学生1名)

(4) 活動

1) 通学補助

通学に必要な制服、学用品、鞆、靴の支給、及び学費、通学交通費、プロジェクト費、卒業経費等を補助します。

2) 緊急補助

子どもが病気や怪我で入院した場合、また保護者が亡くなった場合の諸費用を提供します。

3) 勉強会の開催

学力向上を目指して進学希望者対象に、勉強会を実施します。

4) モニタリング

スタッフによる家庭・学校訪問により、一人ひとりの子どもが抱えている問題の解決に取り組みます。子どもたち同士でも互いに問題を共有する場を持ち、問題の早期発見に努めます。

5) 「子ども集会」(子どもや保護者と事業を振り返り、計画を話し合う場)、「子ども表彰式」(成績優秀者の表彰)

2、紛争の影響を受けた子どもたち

2011年の注目

- 学校を中心とした平和教育活動をはじめます。

これによって



平和的解決を求める子どもたちを育てます。

(1) 事業背景

ミンダナオ島北コタバト州ピキット周辺では、長年続いてきた紛争の影響で約60%の住民が住みなれた土地を追われ、学校等社会インフラが荒廃し、人々の生活基盤が崩壊しました。2008年の武力衝突では60万人の避難民も発生し、現在は、小康状態にありますが、治安はまだ安定していると言えません。国軍と反政府軍との衝突のみならず、親戚関係にあるグループの土地をめぐる争いや、イスラム組織間の争いもあり、事態は複雑です。

アイキャンは、この地域の子どもたちの教育環境を整えるため、学校設備の整備や、地域平和活動等の教育事業を実施してきました。今年度は、校舎建設とともに、学校における平和教育活動に取り組みます。

(2) 実施体制

フィリピンにおける事業は、ミンダナオ第二事務所(コタバト市)がピキット市や教育省と協力して実施、

(3) 事業のパートナー

ミンダナオ島紛争地の学校、及び子どもたち

(4) 活動

1) 教育環境整備

スルタンメモリアル高校の校舎の1棟6教室新築、及び2教室の改築、建設を行うとともに、学校の教育設備を整えます。

2) 学校における平和教育活動

将来的に学校で使用する平和教育カリキュラムを作成することを目指し、地域と文化に適した子どもと大人の平和教育を行います。

3) ミンダナオ子ども会議

ミンダナオ島に住む様々な民族の子どもたちが一同に集まり、異文化の理解を促進する「ミンダナオ子ども会議」を開催します。

4) モニタリング

ミンダナオ第二事務所スタッフが、マニラ事務所スタッフとともに教育省と協力して実施します。

3、路上の子どもたち

2011年の注目

- 地域の子ども保護機関の強化に取り組みはじめます。

これによって



路上の子どもたちを生まない地域を作ります。

(1) 事業背景

フィリピンでは約25万人の子どもたちが様々な理由で路上での生活を余儀なくされており、多くの子どもたちは路上での物乞いや、物売り、性産業等により生きる糧を得て、命の危険と隣り合わせの生活を送っています。その中には、空腹を満たすためにシンナーを吸引している子どもや、生き残るためにギャングの一員となって罪を犯してしまう子どもたちもいます。アイキャンは、このような路上での苛酷な環境での生活を強いられている子どもたちが、守られ、教育を与えられ、人としての権利を享受できるようにするため、路上教育や地域強化に取り組みます。

(2) 実施体制

マニラ事務所が管理運営。

(3) 事業のパートナー

マニラの路上にいる子ども・青年たちとその親たち約300名、「子どもの家」(現地NGO「サンマルティンデポレスの家と宝」)のかつて路上生活をしていた子ども4名

(4) 活動

1) 「育つ権利」を守る活動

路上教育、代替学習制度ALSによる教育、通学補助を実施します。

2) 「参加する権利」を推進する活動

子どもたちの貯金を促し、また社会起業活動(パン技術訓練)を進めます。

3) 「生きる権利」を守る活動

緊急診療活動、栄養改善活動、保健教育を行います。

4) 「守られる権利」を推進する活動

カウンセリングを常時行い、ドロップインセンターで緊急な状況にある子どもに対処します。また家族との和解の仲介、施設への紹介、出生登録の補助を行います。

5) 子どもの権利についてのアドボカシー

BCPC(バランガイ子ども保護機関)強化訓練、家族への権利研修や生計向上のため技術訓練も行います。

6) 子どもたち若者たちの組織化

子どもたちとの会議を重ね、組織化研修を実施します。

7) ニュースレター(NL)の作成

ニュースレターを作成し、パートナーさんへ送付します。

4、先住民族ブラアンの子どもたち

2010年の注目

- ブラアン地域で保健教育活動をはじめます。

これによって



住民たちが基本的な健康問題に対応できます。

(1) 事業背景

ミンダナオ島ジェネラル・サントス郊外の村に住む先住民族ブラアンは、独自の文化・慣習を持ち、主に畑作や炭焼きなどを生業として、山岳地帯に住んでいる先住民族です。人々は、1970年代以降、深刻化してきた不法伐採や入植者による土地収奪により生活が脅かされており、農耕や採取を基盤とした自給自足の生活が成り立たなくなった今、食にこと欠く家族も多いのが現状です。病気になっても村には医師は常駐しておらず、簡単に治療できるはずの病気で命を落とすこともあります。学校設備も不備であり、親が安定した収入源を持たず経済的な理由で通学を辞める子どもが少なくありません。

このような状況に、アイキャンはブラアン地域の生活向上を目的として、教育・生計向上・医療の事業を実施します。

(2) 実施体制

ミンダナオ第一事務所(ジェネラル・サントス市)が学校教員、PTAと協力して実施。

(3) 事業のパートナー

ミンダナオ島ジェネラル・サントス郊外の先住民族ブラアンの地区サンホセ(人口約8,700人)の小学校と子ども、保護者。

(4) 活動

1) 生徒会と教員の能力の強化

サンホセ地区全9小学校において、生徒会の強化を行うとともに、先住民族に適した教育を行うための、教員の能力強化を行います。

2) 生計向上活動

副収入の道を開くため、ハンディクラフトの技術を高める訓練を母親たち30名に行います。

3) 保健教育

サンホセ地区の保健委員をはじめ、山奥の地区の住民を対象とした保健教育を実施します。

4) 小学校校舎と井戸の建設

サンホセ地区で不足している小学校の校舎を2校建設するとともに、井戸水の整備を行います。また、井戸を管理する住民組織を作ります。

5) ニュースレター(NL)の作成

ニュースレターを作成しパートナーさんへ送付します。

5、外国にルーツを持つ子どもたち

2011年の注目

- 翻訳サービスのボランティア運営化を目指します。
これによって  事業の持続的な運営体制を構築します。

(1) 事業背景

愛知県内の外国人登録者数は東京に次ぐ2位となり、過去最高記録を更新しています。また、それに加え、登録していない、日本国籍を持ちつつも日本以外にルーツを持つ子どもたちはその何倍とも言われています。外国にルーツを持つ子どもたちの多くは、小学校高学年から中学校にかけて本人の日本語力と学業上必要な日本語力の間で顕著な差ができてはじめ、これが「学力」として現れます。この結果、子どもたちの中には進学を諦めざるを得ず、複合結果として、母親を見下し、責めることにより家庭の崩壊が起こったり、子どものアイデンティティ障がいが発生させるケースも多くあります。

アイキャンは日本と海外の教育の知識と経験を活かし、愛知県を中心とする日本にいる外国にルーツを持つ子どもたちの教育環境を向上させることによって、子どもたちが力をつけ、また周囲の理解を受けられるように活動します。

(2) 実施体制

日本事務局が学校や自治体、翻訳ボランティアと協力して実施、管理。

(3) 事業のパートナー

愛知県を中心とする日本に住む外国にルーツを持つ子どもたち

(4) 活動

1) 調査や提言、啓発活動

外国にルーツを持つ子どもたちが置かれている状況を調査・製本し、政策への提言や啓発活動を行います。また、在日外国人への理解を促進するために、様々なイベントを開催します。

2) 教育促進活動


学校が保護者宛に発行するプリンや地域の回覧板等を、全国のアイキャン翻訳ボランティアが多言語で翻訳することで、外国にルーツを持つ子どもたちの親が、子どもの教育に携われるようにします。これにより、子どもたちが勉強に集中できる体制を築きます。

3) ニュースレター(NL)の作成

ニュースレターを作成し日本のパートナーへ送付します。

6、ごみ処分場周辺に住む子どもたち

2011年の注目

- 青年たちの保健教育を実施します。
これによって、  次世代の地域保健員を育成します。

(1) 事業背景

マニラ首都圏ケソン市郊外にあるパヤタス地区には、フィリピン最大のごみ処分場があり、周辺には約1万人が生活しています。ごみ処分場でリサイクルできる資源を回収し販売することで生計をたてようとしている人が約3000人いますが、その収入は法定最低賃金の1/3程度しかなく、必要最低限の暮らしを保つのも困難な状態です。また、劣悪な生活環境によって、住民は様々な健康被害を受けていますが、適切な治療へのアクセスが限られています。このような背景から、アイキャンは処分場に近いケアセンターを拠点として、医療と生計向上の事業を実施してきました。2010年には現地の協同組合PICOが事業のほとんどを受け継ぎ、実施するようになりました。今年度はこの協同組合の強化と青年たちの教育に取り組みます。

(2) 実施体制

JICAの草の根パートナー事業として、事業で生まれた住民の協同組合とマニラ事務所が事業実施、管理。

(3) 事業のパートナー

パヤタスB第2地区を中心に、ごみ処分場周辺に住む約5000名の人々

(4) 活動

1) 保健・医療サービスの提供

- ① 定期診療（毎週2回）など協同組合の保健活動の相談にのり、補助します。
- ② 青年たちを対象に保健訓練を実施し、次世代地域保健委員つまりユースヘルスアドボケイツを育成します。
- ③ ユースヘルスアドボケイツによる保健教育を地域で実施します。

2) 協同組合強化

- ① 組合員を対象に基盤強化研修を実施します。
- ② 組合運営について相談にのり運営強化をすすめます。

3) 生計向上活動

- ① 青年たちの技術訓練校通学を補助します。
- ② 技術訓練校を出た青年たちが就職できるように必要経費を補助します。

4) ニュースレター(NL)の作成

ニュースレターを作成し日本のパートナーへ送付します。

7、災害の影響を受けた子どもたち

2011年の注目

- ボランティアセンターの運営業務を行います。

これによって



ボランティアを促進し、一刻も早い復興を目指します。

(1) 事業背景

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、未曾有の被災者を生みました。宮城県東松島市は本震災によって、町の全世帯の約45%である6,758世帯が水没し、死者・行方不明者は町の全人口の2.8%にあたる1,231名以上に及びました。津波の被害は甚大で、半壊家庭での泥出し・家財整理、津波によって流されてきた膨大なゴミの撤去は終了しておらず、家を失った被災民2,426名は、現在においても避難所にてストレスの高い生活を送っています。仮設住宅必要数の4割については建設が完成し、被災民の引越しが終了しましたが、未だに6割(約1,000世帯)の人々は仮設住宅への引っ越しができておらず、9月末まで避難所での生活が見込まれています。このような状況に対し、アイキャンは被災した青少年と住民の生活の再建に貢献するとともに、青少年の教育環境の改善に取り組みます。

(2) 実施体制

宮城県東松島市災害ボランティアセンターにアイキャンスタッフが常駐し、石巻市、東松島市の教育機関と協力し、事業実施、運営を行う。

(3) 事業のパートナー

東松島市と石巻市の東日本大震災の被災者の子どもと大人

(4) 活動

1) 災害ボランティアセンターと協力した活動

- ① ボランティアの調整業務
- ② 避難所・仮設住宅における生活相談業務
- ③ ボランティアセンターの運営に必要な諸業務等

2) 避難所・図書館における青少年を対象とした活動

- ① 石巻市・東松島市の避難所・図書館へ学用品・レクリエーション用品・絵本等の提供

3) 経験の共有

- ① 中部地域から東松島市へのボランティア派遣業務
- ② 中部地域小中学校・企業・団体における申請事業の報告会の実施

8、子どもの参加を促進する事業

2011年の注目

- 今年も「子ども議会」を開催します。

これによって、



子どもたちの意見を事業に反映させます。

(1) 事業背景

アイキャンは17年間フィリピンにおいて子どもたちの保健や教育、そして親たちの収入を増やす活動を行ってきました。その中で、なぜ子どもたちが現在も危機的な状態に置かれているのかと考えたとき、社会に欠如しているのは、「子どもたちの声」であると考えようになりました。子どもたちは夢をみる力も、夢をかなえる力も持っています。様々な課題を自分たちで解決していく力も持っています。この事業が目指すものは、まず「危機的状況にある子どもたち」自身が自分たちの置かれている現状を声に出し、他の境遇にある子どもたちと共有すること。そして、自らの活動計画をつくり、子どもたち自身が社会を変えていく活動を応援します。

(2) 実施体制

フィリピンの様々なNGO、行政等と連携して、マニラ事務所が事業実施、管理。

(3) 事業のパートナー

路上の子どもたち、紛争地の子どもたち、先住民族の子どもたち、身体的障がいを持った子どもたち、親が海外出稼ぎ労働者の子どもたち等「危機的状況にある子どもたち」

(4) 活動

1) 各地域での子どもたちの活動補助

フィリピン各地で、「危機的状況にある子どもたち」が、地域の課題に対して、自分たちで計画した活動を実施していきます。

2) 子ども議会主催

「危機的状況にある子どもたち」の代表者がマニラに集合し、それぞれの「理想」と「課題」を共有し、行動計画をつくります。子どもたちは、自分たちの計画に基づいて、「子ども議会」終了後、それぞれのコミュニティで自分たちの課題を解決するために、また取り組んでいきます。

3) フィリピン国レベルの子どもの参加促進

NGO、政府機関、国連機関と連携し、フィリピンの国レベルで「子どもの参加」を促進します。

Ⅱ、「できること」を増やすプログラム

1、国際理解教育(開発教育)事業

2011年の注目

- 高校生、大学生のフィリピンでの研修を実施します。
これによって、
社会の課題解決に行動する若者を増やしていきます。

(1) 事業背景

幅広い事業を行うアイキャンの特性を活かし、日本に住む人々とフィリピンに住む人々の経験をお互いに共有することによって、社会の中で弱い立場に置かれた人々の「現実」に基づいて社会問題を理解し、「自分の問題」として「ともに」解決に向けて様々な立場で主体的に取り組むことができる人材を育成します。また、今年は書き損じハガキの募集や募金活動、ボランティアのグループ化を行い、主体的な「行動」を活性化させていきます。

(2) 実施体制

日本事務局が全体の管理を行い、海外研修はマニラ事務所が実施。

(3) 事業のパートナー

一般市民5,000人

(4) 活動

1) 学校での授業・講義

フィリピン各地の事業地と被災地での経験をもとに、小学校から大学で参加型ワークショップ形式の授業をおこなうとともに、参加者が一歩踏み出せるように活動を提案します。

2) 開発教育講座やイベント等実施、参加

フィリピン各地の事業地の経験をもとに、自主イベント企画、実施するとともに、他団体主催のイベントに参加し、参加者が一歩踏み出せるように活動を提案します。

3) 事務所訪問受け入れ

小中高生の課外学習や大学生・一般の方の訪問を受入れ、事務所にて活動紹介を実施するとともに、参加者が一歩踏み出せるように活動を提案します。

4) 絵手紙大会(トゥライブプロジェクト)


愛知県内中学生とフィリピンの子どもたちとの交流を促進することを目的に、絵手紙の交流を行います。今年のテーマは「身近にある外国から来たもの」です。

5) 国際理解海外研修

高校と大学生の国際理解海外研修を実施し、社会の課題解決に貢献する人材を育成します。

2、語学教室事業

2011年の注目

- 語学教室という新しい事業が始まります。
これによって、
言葉を通じた国際理解を促進していきます。

(1) 事業背景

インターネットが発達し、世界の情報が日々目に入る時代になるとともに、インターネットにアクセスできる世界中の人と交流が容易にできる時代となりました。社会問題の解決に向けて活動している世界中の人たちと、行動を共にするために、語学力は、最も必要なコミュニケーション手段の1つとなっています。アイキャンでは、一般市民の語学力を向上させるとともに、アイキャンらしく、語学の習得を通じて、「貧困」や社会問題の理解を促進させていきます。

(2) 実施体制

日本事務局が実施。

(3) 事業のパートナー

一般市民100人

(4) 活動

1) 語学教室の開催


日本事務局にて語学教室を開催します。本年度は、まず英語とタガログ語から開始し、同時に語学教室に必要な運営基盤を整えます。

2) イベントの実施

フィリピン各地の事業地の経験をもとに、語学と組み合わせた自主イベントを企画、実施します。

3、スタディツアー：研修事業

2011年の注目

- 今年度は5回のスタディツアーを実施します。
これによって、
フィリピンと日本の間の相互理解を促進します。

(1) 事業背景

現在、世界では南の国と北の国との間に大きな経済格差があり、その解決に多くの国や諸機関が取り組んでいます。その格差は広がる一方で、より多くの人々による解決に向けてのコミットメントが求められています。アイキャンでは、フィリピンの現状から、困窮の中にある人々の苦闘を日本の人々に伝え、同時にアイキャンの活動を広く知ってもらい、また開発に関心のある人々に学びの場を提供し、ともによりよい社会作りを担う人材を育成することを目的として、社会開発研修やスタディツアーを行い、事業地の益と、参加者の益と、アイキャン事業の益とを満たすことのできる3者がWIN-WINとなるプログラム内容を提供しています。

今年度は、フィリピンの社会開発事業地、そしてマニラの都市コミュニティにおいて、交流と相互理解促進を目的としたICANスタディツアーを実施します。

(2) 実施体制

マニラ事務所が主催、日本事務局やパートナーNGOと協力して事業実施、運営。

(3) 事業のパートナー

一般市民40人

(4) 活動

1) ICANスタディツアー


アイキャンの事業地の住民や子どもたちとの交流を通して、相互理解を促進する4泊5日ツアーを、8・9月に3回、3月に2回予定しています。

2) 帰国後の報告会

参加者による報告会を開催し、帰国後の参加者通しのつながりを強化するとともに、参加者以外の方にも、参加者の声からアイキャンの活動やそこに住む人々について理解を深めていただく機会を作ります。

4、フェアトレード販売事業

2011年の注目

- フェアトレード業務のマニュアル化を進めます。
これによって、
より効率的な業務遂行が可能になります。

(1) 事業背景

アイキャンのパヤタスごみ処分場での生計向上事業から2005年に独立した女性フェアトレード団体(SPNP:パヤタスの生計向上のためにがんばる母親達)をはじめとする生産者団体の運営を支え、生産者のエンパワメントと収入向上を目的として、実施します。今年度は、日本とフィリピン両国において、フェアトレード業務のマニュアル化を進め、ボランティア・インターンによる効率的な業務遂行を目指します。

(2) 実施体制

日本事務局、マニラ事務所がSPNP、ボランティア、他機関・団体、全国フェアトレードショップの協力を得て事業実施運営。

(3) 事業のパートナー

フィリピンの生産者団体、及び日本の一般市民

(4) 活動

1) SPNPの団体運営支援

SPNPの団体運営をアドバイザー役として支えています。

2) 商品開発と仕入れ

購買層のニーズの把握等、SPNPの新商品の開発に協力します。注文にしたがって、SPNPや他団体のフェアトレード製品を仕入れます。

3) 販売


日本とフィリピンでイベントや学校祭、事務所、ホームページ、またフェアトレードショップ等を通じて販売します。

4) 啓蒙活動

フェアトレード製品を通して、生産者の置かれた環境と自分が置かれた環境を比べ、社会の中で弱い立場に置かれた人々の「現実」に基づいて、社会問題を理解し、「自分の問題」として「ともに」解決に向けて様々な立場で主体的に取り組むことができる人材を育成します。

5、フェアトレード啓発事業

2011年の注目

- フィリピンの生産者を日本に招待します。
これによって、
東海地域のフェアトレードを活性化します。

(1) 事業背景

「お買い物」を通じて、平和な社会の構築を目指すフェアトレード(公正な貿易)運動の広がりは、日本全体では盛り上がりを見せつつも、東海地域においては依然として限られています。その為、市民は世界中から届いた商品に囲まれて生活を送りつつも、「南」の生産者の声は届かず、「南」「北」の経済格差が固定化されてしまっています。このような状態に個別に対応するのは限界があり、地域のフェアトレード関係者や有志が一丸となって、東海地域のフェアトレードを取り巻く環境を変えていく必要があります。

(2) 実施体制

日本事務局

(3) 事業のパートナー

東海地域のフェアトレード関係者

(4) 活動

1) 東海フェアトレードフォーラムの開催

東海地域のフェアトレード関係者70名が一堂に集い、地域のフェアトレード活性化を行うフォーラムを開催します。フィリピンから生産者の母親をフォーラムに招待するとともに、東海地域を周るキャラバンを行います。

2) 東海フェアトレードポータルサイト作成


東海地域のフェアトレード情報満載のポータルサイトを作成するとともに、広告収入での運営を目指します。

3) 東海フェアトレードマップの作成

地図の作成により、フェアトレードに興味のある人たちに、地域のフェアトレードショップに足を運んでもらえるように促します。

6、外務省NGO相談員

2011年の注目

- 全国相談員会議を中部で実施します。
これによって、
地方のNGOの理解促進に寄与します。

(1) 事業背景と概要

日本のNGOの組織強化や専門性の向上を目指し、外務省がNGO相談員制度を実施しています。その委嘱団体として、アイキャンはNGOの活動、設立、管理・運営など、市民やNGO関係者からの質問・照会に答えています。また国際協力への理解の促進のため、国際協力関係のイベント等において相談業務や講演を行う「出張サービス」も行います。

(2) 実施事務所

日本事務局

(3) 事業のパートナー

中部・北陸地域の市民、外務省

(4) 活動

1) 相談業務

特に「一人ひとりのできること(ICAN)」を大切に海外開発事業やフェアトレード、国際理解教育、多文化共生、スタディツアーの長年の実施経験より、中部・北陸地域のNGOや学生、教育機関や行政、企業(CSR)、グループ、個人が取り組む際の幅広い相談に乗ります。

2) 出張サービス

中部ブロックの管轄である三重、愛知、静岡、岐阜、長野、福井、石川、富山、新潟の9県に幅広く出張し、NGOに関する理解を浸透させていきます。

3) 全国相談員会議の出席と開催

7月に東京で開かれる全国相談員会議に出席するとともに、12月に全国相談員会議を、他の中部ブロックの相談員とともに中部で開催します。

7、外務省NGOインターンプログラム

2011年の注目

- インターンが事業報告のノウハウについて学びます。
これによって、
より高いプロジェクトマネジャーの資質を身につけます。

(1) 事業背景と概要

近年NGOへの就職を希望する日本の若者が増加していることを背景に、外務省はNGOの若手人材の育成を支えるNGOインターンプログラムが実施しています。

アイキャンは昨年度に続き、このプログラムのインターン受入れ団体として参加し、実務を通じた学びの機会をインターンに提供しています。

(2) 実施事務所

日本事務局、マニラ事務所

(3) 事業のパートナー

インターン、外務省

(4) 活動

1) インターン研修

育成内容

- 各ステークホルダーへの報告書作成能力
- 業務遂行、課題解決能力
- ロジカルシンキング→決断力
- 危機管理・リスク回避能力
- 弥生会計の入力レベルの会計能力
- JICA草の根会計報告
- 異文化マネージメント能力(業務レベル)
- 英語・タガログ語語学力
(ワークショップをファシリテートできるレベル)
- ネットワーキング能力
- ビジョニングの基礎 等

2) 報告会、シンポジウムの参加

9月に帰国活動報告会を行い、フェアトレードシンポジウムに参加します。

■ その他の活動に係る事業

リサイクルバザー等

(1) 事業背景

リサイクルバザーの実施

(2) 実施体制

日本事務局

(3) 事業のパートナー

日本の一般市民

(4) 活動

リサイクルバザーの実施